



2022年 5月 1日
第196号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



今日5月1日はメーデー!!!

ところで「メーデー」ってなに? 「8時間労働」を訴え労働者がたたかった!

ゴールデンウィークの中日にあたる5月1日は「メーデー (May Day)」といい、国際的には「労働者の日」または「労働者の祭典」と呼ばれ、その歴史は100年以上におよびます。

いまから136年前の1886年、アメリカのシカゴを中心に、当時の合衆国カナダ職能労働組合連盟が「8時間労働」を要求して、38万人以上の労働者がゼネラルストライキを起こしたのが起源です。当時のスローガンは、「第1の8時間は労働のために」「第2の8時間は休息のために」「そして、最後の8時間は俺たちのやりたいことのために」というものでした。かつて、労働者の労働時間は12~14時間が当たり前で、なかなか8時間労働が実現しない中、1890年には世界の労働組合に波及していきました。



矢継ぎ早に提案される会社施策

ある現場長「これからはプライベートと仕事の線引きはなくなっていく」発言も...

4月25日、JR東労組横浜地本は横浜支社より「『変革 2027』の実現に向けた組織の再編について」「横浜支社での現業機関における柔軟な働き方の実現について (その4)」「運輸現業機関乗務員運用の見直しについて」「2022年度駅業務執行体制の再構築について」の提案を受けました。横浜支社の形がかわる大きな施策といっても過言ではありません。

全ての施策に共通するのは、社員一人ひとりに多様で柔軟な働き方が求められているということです。しかし、業務指示が曖昧であったり、個人貸与のタブレット端末によっていつでもどこでも業務ができてしまい労働時間管理が曖昧になっているとの現場からの指摘があります。そのような中、ある現場長が、社員の発案する業務に対し、労働時間かどうかを尋ねると「これからはプライベートと仕事の線引きはなくなっていく」と驚きの発言をしました。

いまこそ「メーデー」の意義を再認識しよう!

サービス
残業...



いままでは法制化され当たり前の「8時間労働」も、大変な苦勞のもと勝ち取った労働者の権利です。しかし、DXなど第5次産業革命と称される現在、「働き方改革」の名のもとに労働密度が上がる一方、労働時間とプライベートの境目がなくなり、気が付けば長時間労働に戻りつつあります。

私たちは、今一度「メーデー」の意義を再認識し、労働時間管理をしっかりとおこない、JR東労組の『新たな施策に対する5本柱』をもとに、各種施策に真正面から向き合っていきましょう!